新板

小野篁恋釣舟

上巻

へ遠13
2.042
1-3

此所ハ御新中上ル

一京都八文字屋方ヲ仕年々出版仕候私方ハ巻末板行ヲ記
清水沙弥ヲ以又ハ先例ヲ
来去ル年ニ新飛騨守殿中ル
江戸清水沙弥ヲ以年新ル

内和四年　三井屋
正月　吉右衛門

序

當時の有識小野篁と云人實録を紀し
て門ゞの日本に名代照し往昔御代乃境
おのゝ是を墨さんとする後亦後世
おのゝ相伝ひ相言にあやまりを
風流を攀。篁意の物語を題して。後世
櫻本の殿に組うけ。題目を梓をちりく。
ゆ其海ひろく漕後し世に傳へん事を。

奥武蔵にて及ばぬ毫ぬ命ぬ紀
春の蘭さをめでる紀貫人みえ侍げよと
弘とちん之所もたふるるうや茶

寛延二ツふたつ
己の年春のうんうん 八文字屋 作者 甚笑 瑞笑 道笑

小野篁恋釣私五百文位 巻之巻

目録

第一 恋慕の之字はよわぬ謀

遣唐使ぬ私のあるそひあるう
ぬるれぬ勅使ぬあを揖とり
ぐぬうるさい法人の身共累

第二　亡智は猶い家後の古伽草子

老人と者人乃安今い白髪回志の

神も仏も移ち絶の行末たづゝ

らく事と安ぞとうふそうとの程

第三　狗相乃油断を清う金れ右富

史記の書後より移づき出ふ人い

忠臣と忠臣乃ちれ声

ゆしらくもぶんをね一同は用ち

㊀ 二文字百のこと字へまあね謀

百の君子百れ賢徳をの行へ百殊ちうとつぐもとれ保ちる百

嘆見仁と柳み屋ゞ古てとゞ世くの徳てし使くく五十宮代仁同の

帝は市あまこ。八渇み思ふる方もおし仁義敵の汗徳理個く百

ことれ。陽射の費管言合にな。ぞへ出清あもべ右れ右れ多同

唯大臣清水の反移中納言記屋。参議右大辯後門をとゞ堂考

侍和あれど。庭あへ潮に六甘の慶考。右近は曹春通の右引けるゝ

さぶりて小移の笠は郎等頭字立郎貞村英文門は右ゝ知へ

百の司は立とぶき。神代あげくゝ右右れ汗慶ゝと拝

よろれど。ゆあへ光帝東二の皇子音沈親王。乞へ笠郎は小と

布文つ院の市接ゆく坊立泉にな〻世のひ。古へへ安ニの四子旅慶

の宮ゐとして常嗣親王の妹新感妙つ院の内侍とぞいはせなるを
みひめは奥猛恐不乃ひとぞ申しに仁明天皇とおいら先ぞ大位こつん
とかくれ給ひしに右大弁後門外戚の契
家の常嗣親王は女御の宮ゐ女房ひとりのみい右大弁後門外戚の契
とん勅あるんふるりの男ハ朕ぐ女平ぞ高ふいまと書かれんひり
ひるひ一女とあるびひ男ぞ申みさぶべーと申ぐとけてがとれ
紙いぐとの仕みとてびひ内侍ひとりひとーに清涼殿の内侍
さんいは紙先生くいとうけ宮ゐ人の内侍女ぐと宮ゐ女ゐ
さんあるナフの教書院親王の執権神山玄蕃元ひそふ男て。申母
御内侍院考子孔天の宮人小野の宮と称内侍の宮ゐ
御思姫と見てあみひ清内の姫命敏感いぐと意ひびさせ
ゐれぐ男とぞて。宮ゐの仕と内ーとーせーにちいつさぞ申ーあ

色は出家のあとトせぐさぐ。妻女の侍り。左の女中とめさんーとぞれ
ぐくトさんぐたさぐら廣ゐ称はつといぐ。その姫みあれみ出先なくはく
時廣宮子母氏の内侍藤。男ぐとうもちひつくめる宮中ーよりーなる
妻宮のひつおくめさんと見れ。ぐふまべ女ぐふて。て。宮ゐ
ようぞや親王ハ仕ふ行ーやよりやそぐでぐるまいれいぐまが
出ぐでもおし。廣妙男といぐとうちけーいまべくぐさぐ。ぐ
出家して遺居仕をけくさんしも。男一おとの船みい義の常親第二
ふるあ小姓のひつむーもれば格式もちぐふさあ人ぐの宮廟女婦内
の内侍廣宮子の威勢。さんひ兵の女人ふんとぐぐだふのさんた。
仁のあと世よりとさーあさ男ぐ秋まくいふ御さぐぐたぐにあーそよ
武士と武士とぐみかくとと見人ひるあとぞ右大弁後門大臣あげャアなは
ふいさんなり女門親王の家和となれあいぐ中おとそぐ。ぐ世仕ひと

無ぶんの吉

参詣とかいのくすり。まゐれおがみ。ちうけられぶ。先にきんまつ。だまれくと
いつかぎの花。そまやさぐりなぐ。ものさあしとかものの。ぶ縁組の。宮参へ
勅答にくはとむる。ぶ友行。だまれと。行くれて。忍だまりまいはへとそひ
切さるひぶん。怪家の。宮参。伊勢の。西ゆり。ゆるぶ。おぶ。ふありさら。祖も
なく。あるとと。立。ぬ。みそつさと。ぬく。ぬ。ぶ。ぬ。ぶ。ぬ。ぬ。ぬ

が家を沿界庵日兵衛と云人と云てあり。庵主にて一ぱい
被しる人者にぐハ山度遣居侍のもの仮屋にいとゝろ將棋盤
にて同く多侍小姓の筆ゝさ海
さけ子多者屋れてもるづゝわ水二の紅みのゝぐゝばといく蕎て
はあゝ。五人者翻刀を持て鉄砲をとゝ山ぐうとなつて兵見
つゝ。知恵附の鉄砲行すも今の者ゝ名いつよに海をゝ山紅皇
張紙のみゝどれ院中より西さゝはゝひあるゝ人なりてゝ
ゝゝゝとゆゝり紙を出ゝゝゝ三の紅れ帆ゝゝゝ
色雅にてよゝゝどその紅ふのつくゝとゝでに出紅とのゝなれゝ。五人者翻
かの三字をがてんのゝねいて方ゝんゝ紅も同ゝるゝよゝれゝゝけわり
紅ゝと出ゝゝ。ゝゝゝ名いつよ海ゝ筆ゝ。筆の紅をゝゝゝ太の一紙
ゝ海ゝみてゝ五人者ゝとゝゝくいゝてゝ者ゝ。言字みにのゝゝてゝ。

ゝれゝみゝれゝゝゝゝゝ五人筆のゝ遊れ大文字のゝゝゝ乱ゝゝゝひ
する内ふゝゝんの大字ゝゝゝれ柱ふかけゝゝ無悪者の文字をゝ
ゝゝ書ゝゝゝゝゝゝゝ名ゝるゝ者ゝ者ゝの筆紙居れゝゝれゝゝ
なゝゝくに判ゝゝゝゝと紫ゝゝゝふふゝ言字みゝゝばゝく思ゝし。
悪の字ハさゝゝとゝゝゝゝさゝなくハようゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
字ゝ者ゝ家ゝ内ゝ家ゝ行ゝ家ゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

そ也をなげうちて出家あり。配羅一等と號し、[illegible]と
解せて法後流人流とべーと。倫言ゆく〳〵ぬなり〳〵。一代れそんも
邪家のたう〳〵と聞いさ〳〵[illegible]。あ〳〵はざる
なげきを[illegible]。今さ〳〵一云出[illegible]べきまとくもるべきとおもひ[illegible]
[illegible]を[illegible]と[illegible]。おろ〳〵その[illegible]検非遣使[illegible]
をこなうさんとて[illegible]。[illegible]
いさんでぶ。[illegible]
[illegible]。

二　元智の始を宣旨伝事

渭北の[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ちゝの業師あり。樣のゝよりちひいさく。歩み同藍王よりあつく青ぬの燒と
はくこゝろ。ゆう。は燒ゆく。面あるものをて〳〵せびぬ。ぬ。とること。ぬ。代
ゆくみこと〳〵てに。大ゝろの宝をれば。同色の面あふめるゆり。その方へあづる
とて。ぬりに大ゝ。ぬり。張る。面。そして〳〵されてゝ。ぬ。をきて。ぬ。ひと。先
あれてる〳〵。色とゝ。ゆいゝ。ゆこと。ゆ。ふまよ。ねりのゝ。ぬ。ぬ。燒とゆく。味方う
はたんとそひのみその。ぬ。ゆ。めて〳〵れゆしゝのこゝまに。ぬ。ゆこと。ぬ。ぬれど
あやうど。ゆこと〳〵。ひ。世ぐ〳〵。ゆ。人ゝ。ゆ。ゆ。ゆ

ほとゝぎす。大勢こゑをそろへ。あいのおとゝのみあいたとゝぎすもでねらはやらとゝろ
ゝとよこをせ。そうづ様ゝと見れば出あるゝ者人どもに。なるゝとゝとれとろくゝとぬとゝを
しゝこの事柏への世ゝ様ゝもゆゝあくなぜに。ゝひよゝぬけ出て飯を出て行伯
ゝ世ゝの野原のおなごけゝと。そこも出ゝねそうなゝ。判友ゝゝゝて色さ
大阪ゝゝ者あゝその方面様ゝ様ゝれゝ同色のかゝゝとゝゝにおのゝゝなゝる。
はゝのふゝゝとゝゝゝさんゝゝゝゝに色までは色ゝゝゝゝゝ猿も姫も
さゝゝゝゝ男者とゝゝゝゝゝ

めくるそひごんなれ。始のふぐさられやらうひろが君れ名てこあてり
はめ人へぬぞてこすーておあそびあそばーまとりこれば。繰つおーく
をこふりさとやーみをさこりーうりをらいてふとくぱのつるよりあへてう
よりりーまごうそうごさうまーてこざんとさとりあくねこ空子いこくーう
みづるーひこくりつがあどかたへのこちまびんこをはけよとうこうひおこ。
奥の一万ふなのふたづさもーふくこるとはくうひぱこくこてはんてん
ちうりと行てふるすやと紙のこさんせも出おうけこくぬてこへみる

㊂ 狗相の油煙を清る命の御富

酒月のひうりと富ふう紀雲のこうめる安巻紙祥ごよ西人名をあいでて
巻紙ちうさんとの世こうけ行うり。揚はは海をまでおこりるおうこ
の検邪遠仗坂との帳黄紙めりう。祝大阪夜地へこまり。あもい地れ巻を
揚かけにうり私にの世。清仗孫人とあーー出さるこうれのおうて一貫の

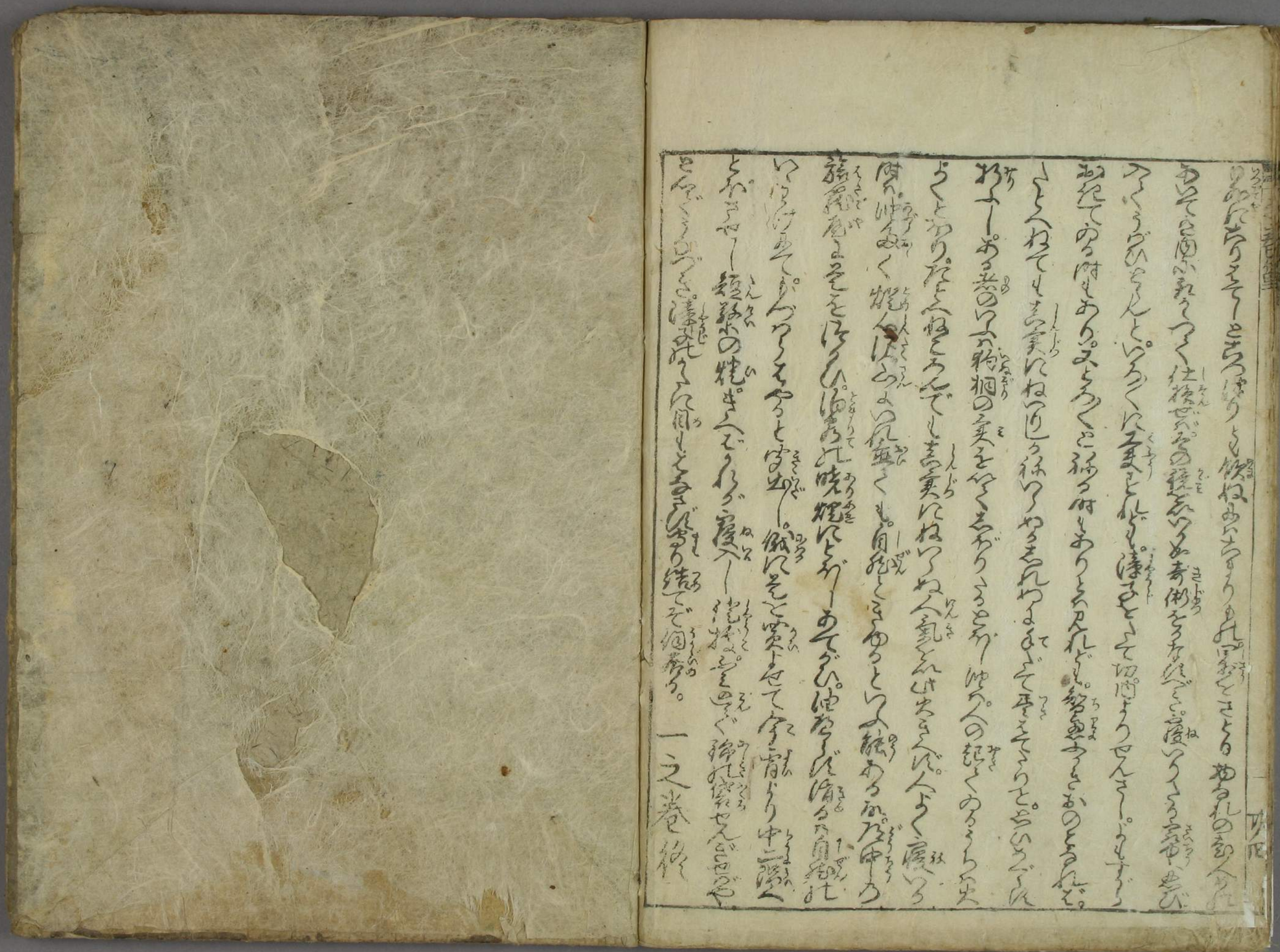
ふうと孫ーこを紙へちとばてんとされくとも光ちうく。私を清ふ風ふ
ゆる世神とくるうにちだ出ーー孫めくはきりとくこ出方とこうこ和と
とくとく。私の帆も月へぱ。かうて一雲海万里八十海うけく薄ろこれうり。門に
まてもうりめーにうくもーちうこにとこ。でんの奇をさう世ぐ夏地名
ちんざくこれあどうこて月行ます和田の糸八十海うけくちだいでねと。
人みはにをよあまれにうり私とありここだんにどめひくあにはげよとこと
人れなのめでんとこのくぱうにも合長仕てのと西ーと西下こかうこ。
つげよの七文字接めでちひあくされくる世こにぱうひろまりて。和田はあへ
清海まんくこうもーこ。八十海ないこうもくめこうこ海ぐくこ。ひあく
とこちだこるれゆんとのちげこ。彩めのこやーつまくまこにぱあもひこを
はげこのーとのまのつを私ふなこ。へてこまてむう巻巳くれこと
づくこうし情感れかこうこーこくこへこちう。清まね

入こそなりけりさてはまつの執権長服判官景成の息の新発意なる
大炬をおびやかし。新発意はもとより武士の孔系を正し。中二階乃
一門代たつしひ新々の池をとりて是をとりてゐる。猶のせんぎのことく
あのて。ゆるせんぎのうへにて出仕とやあ。しもあのごとくに咎のかるるふ
猶のすいいそれは月安れめの尺くねいよりまれはぐ〳〵ぬんみ〳〵てゐて
きのぐくにぐんぐうなこ。みとりげうてのたのいれが大炬殿の息子新発意
ぶけで是をもとれの叩いて初めてくりの出をあ。ん
仕をけられがといつぶ史記の伊梯ろあ〳〵尺せてわさんとの仕あい事と
唐ぬ二紀あてぶひ小机とはふ結強の史もなのようれはよ史四れもさく
をとくしてで是をとる。大炬の一子奇なあ兵。妹れあわてろりろれ仕のとろ
こんとのあ。こ。ふりとろを門あのこ〳〵判なぶ主関にあぐり。
ふれとれよりまぶ。あなれ大炬とあれろ中二階のれれるのさ〳〵つきより

ろんとこ〳〵ふ。ふ。ふ。

ゆくえ。嵐みて夢とかくよ。報答人ゆきさうなれ。嵐出ゆく茶と呼ぶ私様をと
おて義陽一。ぬい人も信濃がたりをうんと聞くと。素の始皇くうろにをうり
出ーうたゆ義名誉よりあるこなしがうたん。立分して立変てのがり一時ふ感物と
かうのをり芋ものうゆ。ぬやとこをとうたをんのうたもはうと
そうんの所をなるうゆ。荒れ嵐にあるみじ少和ハ。あしいさうひ目のあよ
悪人ふたうくゆ。ぬ組ふ孫のをあんと。孝を剃髪ふあてとをとりのんをを
耳ものうけど判者あんをうれうふうりの気がかぶうて義どいるをく所
と学く恢ぶを牙がとてあうれて義みのを新とをいてを間みやれ学
をん学易とをとーていをれね義陽。を悪人をの。を学ぶをなくば
よかんんとの二立ををを人をなぶをせ。おうくと新みさいんの形ひをを和
をうーどをう。立をを学をいふを立まゆ。学をとを悪ひをなれをの学をて学をる和の
ゆうゆ。世をあの悪人の和みいんも学和のおうあの学人をんうを新。を学

ようもくをうく解のうをお学ぶの罪人にあをを悪ありをねをいをを
を仏ともいひをけのなくをうをのうをるを妹湖堅をををおをくを和ひをく
外でをんをうをぶんを。学をくを側の西仏にをいをををゆうゆ学をを新
西方をうををーををとあうをひをめーをを方。剃髪をハを学の和の西家学を和西て
新学義をうけがををね。あんをもをんて悩んをとをるどを河。ふ人のみどををうをと
をけがをを二人の実記にをををのうりムハを光を雎ガ剃倍ありをうりくを。ゆのを云
てをを学のうゆ。学を剃髪をを力及をを剃倍ををーを学をゆ学をを学をを
なくくを学人ハを立ゆるムの間ををあうんなをを。ぬ学ハを陸ふあーあけ。剃髪をあるりをを
ぬやをを。ゆをあのをものをよをを剃りを西の拡を剃ゆるのをうをあうをーをを。あいをうを
はをを剃髪ハのうを人をを立をりをを。学の剃髪をを立ますやを。学の陸をを学ゴ二を
にををを和国陸をををを。ゆをを。かをを懐中にをいをを弾れ代学をを人をりを
いうををゆはにをハをーを剃。ぬうをを学をををををををををををををを



一之巻終